

「舞鶴市部活動地域展開推進計画(案)」に関するパブリック・コメントの実施結果について

標記計画(案)につきましては、令和7年1月22日(水)から2月21日(金)までの間にパブリック・コメントを実施し、3名から23件のご意見をいただきました。

ご意見に対する市の考え方は次のとおりです。

- 処理区分 A：意見を踏まえ修正等を行うもの
 B：意見の趣旨を踏まえ、今後の施策において反映させていくもの
 C：意見の趣旨が既に案に盛り込まれているもの
 D：意見に対する市の考え方を説明し、案通りとして理解いただくもの

№	意見の要旨	区分	市の考え方
1	土日の活動の「受け皿」が完全に確保されてから、土日の部活動から地域の活動へ移行すべきではないか。受け皿がなかったらどうするのか。	D	舞鶴市では令和3年度から部活動の地域移行について取り組んできましたが、具体的な移行時期を明示することで、より現実的な地域展開の形を各競技や活動で検討し、実証事業を進めることが可能になることから、計画に明示したものです。 今後競技・活動団体等や指導者の皆様から協力をいただきながら、子どもたちが希望する活動ができるよう進めてまいります。
2	地域クラブが成立しない場合、特定のスポーツ・文化活動の機会が失われる。	D	学校部活動にある活動については、何らかの地域クラブ活動ができるよう実証事業等で検証をし、令和8年度2学期以降も活動出来るよう取組を進めています。 また、学校部活動にない活動も地域クラブ活動として選択できるようにすることで、今よりも選択肢が広がるものと認識しています。
3	実態調査では「8割の保護者が月会費3,000円までの負担を希望」と回答しており、それ以上の費用負担には慎重な対応が必要。	D	活動により必要経費は異なりますので、一律の負担額を定めることは困難であるものの、適正な費用負担で参加できるよう検討します。
4	既存の学校部活動のように無料で活動できる場が減少する。	D	学校部活動は長年教師の献身的な支えにより維持されてきましたが、このような体制を今後も維持することは難しく、教員が本来業務を果たすための時間的余裕を持つためにも、必要な取組であると認識しています。 地域クラブ活動については、適正な費用負担で参加できるよう検討します。
5	地域クラブ活動になることで送迎の負担が大きくなる。公共交通機関が整備されていない地域では移動手段の確保が課題。	B	送迎の負担については本取組の課題の一つとして認識しており、負担軽減のため、東西で活動場所を分けて実施、複数の活動団体から選択できるようにするなどの実証を重ねており、今後もできる限り負担の少ない実施方法を検討してまいります。
6	子育て、孫育てが終わった祖父母が今度クラブへの送迎で疲弊しないようにしてほしい。	B	送迎の負担については本取組の課題の一つとして認識しており、負担軽減のため、東西で活動場所を分けて実施、複数の活動団体から選択できるようにするなどの実証を重ねており、今後もできる限り負担の少ない実施方法を検討してまいります。
7	実態調査で「休日は休みたい」と回答する生徒が多く、地域クラブ活動の参加率が下がる可能性がある。休日活動が任意	D	部活動も、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある生徒が自主的・自発的に参加するものとされており、あくまでも任意の活動です。

	参加となると、競技力や文化活動のレベルが低下する懸念がある。		地域クラブ活動になった際には、部活動よりも多様な選択肢の中から選べるようにすることで、学校部活動の中からだけで選んでいた頃よりも子どもたちの活動の選択肢は広がるものと考えております。 また、同じ競技や活動でも競技力や技能を高めることを目的としたクラブ、レクリエーションとして楽しむクラブなどと分かれていくことで、子どもたちのニーズに応じた活動ができるようになると認識しています。
8	スポーツ系、文化系ともに専門的な指導者の確保が困難。 ボランティア依存になりやすく、持続的な活動が困難。	B	学校部活動では専門ではない顧問が配置されることがあることから、専門的な指導を受けられるようになることが地域クラブ活動の大きなメリットの一つです。 地域クラブ活動について、活動団体によっては指導者がボランティアで指導を行う団体があることも想定されますが、指導者へ一定の謝礼を払うことが、持続可能な仕組みのため必要になると認識していますので、地域クラブ活動の体制作りを進めていきます。
9	学校と地域クラブの連携が不透明。 部活動顧問が完全になくなるわけではなく、移行期間の負担が依然として大きい。 部活動の顧問を望まない教師の救済が不明確。 6割以上の教師が「負担を感じている」と回答しており、望まない教師が顧問を続ける状況が発生する可能性。	D	現在移行期にありますので、顧問教員と地域の指導者との連携が重要だと認識しています。 令和6年8月に地域の指導者と顧問教員を対象とした説明会・意見交換会を実施し、各競技・活動でどのような地域展開のあり方が良いのかを意見交換していただき、それに基づいて実証事業等を進めています。 望まない教師が休日の地域クラブ活動に参加しなくても良い運営体制となるよう、引き続き取組を進めていきます。
10	クラブ活動に情熱を掲げる教員が、地域クラブ移行によって指導の機会を失う可能性。 希望する教師がクラブ指導を継続できるような仕組みが必要。	D	兼職兼業の許可を得ることで、教師が地域クラブ活動の指導をすることは可能で、実証事業でも複数の教師が地域クラブ活動の指導に当たっています。 異動に左右されず、特定の地域クラブ活動で安定的に指導に当たることが可能になります。
11	文化部活動では学校施設が不可欠。代替施設の確保が難しく、十分な活動ができなくなる可能性。	D	地域クラブ活動では学校施設を積極的に活用しています。多様な活動を保証するため、市の公共施設等も利用するほか、府立学校等の施設利用についても要望しているところです。
12	地域クラブ活動の持続可能性が不透明 立ち上げ時は支援があるが、長期的な財源確保が不明確。	B	長期的な財源確保については、一定の受益者負担を原則としながら、市としても財源の確保等の取組を行います。
13	部活動単位での参加が前提となっている大会が多く、地域クラブがどのように参加するのかルールの整備が必要。	D	現在、中学校総合体育大会については、地域クラブ活動として出場できるルールがすでに整備されています。 それ以外の大会についても、大会主催者がそのルールを定めておりますが、地域クラブ活動で参加できる大会が増えてきています。
14	文化系の大会は「学校単位」での参加が	B	現在全国的な地域展開の流れの中で、文化

	前提。 地域クラブとしての大会参加枠を確保しなければ、生徒の発表の場が減少。		系の大会のあり方も変わりつつあります。その動きを注視して取組を進めてまいります。また、文化系の発表の場については、新たな発表の場を設けるなど、具体策を検討してまいります。
15	地域格差の発生 指導者・施設の充実度が地域によって異なるため、クラブ活動の充実度に差が出る可能性。	D	学校部活動は学校によりクラブ数が異なり所属の学校の中からしか選択できませんでした。が、地域クラブ活動となることで選択肢が増え、地域格差の解消につながる取組であると認識しています。
16	文化系クラブにはスポーツ系と異なり、地域クラブが存在しないケースが多い。専門的な指導者がいないと継続が困難。	D	現在、舞鶴市文化協会等と連携して地域クラブ活動の取組を進めています。文化部活動は運動部活動より選択肢が少なく、元々休日の活動がない部活動も多い現状でしたが、地域クラブ活動となることで初めて選択できる活動も増えると認識しています。
17	地域クラブ移行によって「勝てるチーム作り」が優先され、初心者や初めてのスポーツ体験をする生徒が参加しにくくなる可能性。 競技力向上と初心者支援を両立するプログラムの整備が必要。	D	競技・活動によって、特色ある地域クラブ活動が複数出来るパターン、一つの地域クラブ活動でレベル別の指導をするパターンと様々なケースが考えられます。子どもたちの希望に合わせた活動が選択できるように取組を進めます。
18	民間委託によるコンプライアンスリスク、指導者によるパワハラ・セクハラなどの問題が発生する可能性があり、適切な苦情処理・監督機関の設置が必要。	B	スポーツ・文化芸術活動に携わる組織・団体や、指導者を対象とした知識・スキルアップ等の研修や啓発の機会を設けます。地域クラブ活動に対する苦情について、クラブ内で解決できない場合の対応については、市の関係機関でも相談に応じられるよう検討してまいります。
19	クラブ費用の有償化により、「舞鶴市こどもまんなか計画」との制度上の整合性に問題が生じる。 こどもまんなか計画では、すべての子どもに平等な教育機会を提供することを目指しているが、有償化によって経済的格差が拡大する可能性がある。 市の計画と整合性を取るため、低所得世帯への負担軽減措置や無償枠の設置を検討すべき。	B	地域クラブ活動については、一定の受益者負担を原則とはするものの、低所得世帯への負担軽減措置の他、最低限の活動の保障を平日の学校課外活動で担うなどの検討を進めてまいります。
20	この計画案では、教職員の働き方改革が主たる目的となっており、地域に負担を押し付けている印象を受けます。	D	本計画の主たる目的は少子化により現在の部活動が従来のように活動できなくなっている現状を踏まえ、子どもたちが希望する活動に取り組めるようにするためのものです。これを実現するために、学校・地域社会・家庭が今後、より一層、協力し合い、子どもたちを基点に考えた豊かな文化・芸術活動に取り組むことができる仕組みづくりを進めてまいります。
21	大きく変えるのに全市民に向かったの広報もなされず、「お願い」の言葉もなく、上から言われたことを忠実にやろうとしている姿勢に反発が起きている。もっと地域に協力をお願いすることが大切なのは。	D	全市向けの広報については、広報まいつるの特集記事を昨年度組んだところですが、今後も現在の部活動が抱える様々な課題についてより多くの方に知っていただき、舞鶴市における豊かな文化・芸術活動の創造にお力添えをいただけるように、さらに広報や啓

			発のほか、協力をお願いする機会を設けてまいります。
22	人口の多い都市部ならいざ知らず、マンパワーの不足している地方ではなんでもありの方法は逆に無理がある。	D	地域クラブ活動のパターンについては、舞鶴市の現状も踏まえ、競技や活動により地域展開のより良い形が異なることから、様々なパターンを明示しております。 今後も活動場所、活動種目、活動形態、活動頻度等、様々なパターンを検討し、実証事業等を行ってまいります。
23	先生の負担も軽減し、地域の指導者も大きな負担にならない部活を考えてみては。 現在の部活をもとに、平日の放課後は学校の先生が、土日の1日は休みとしてももう1日は地域の指導者がみるところからはじめれば、先生も地域の方もそれぞれ休みも取れるのではないかな。 地域の状況も数十年前とは大きく変化している中では、地域の方も受け入れられるようなことを考えるべき。	B	現在すでに土日の部活動はどちらか1日のみの活動となっており、現在検討している令和8年度2学期からの地域展開の多くが平日の活動は教員が、土日の活動は地域の指導者に指導いただくことになることを認識しております。 地域クラブ活動の形態にもよりますが、特定の教員や指導者だけに負担が偏るような仕組みではなく、活動内容を勘案しながら新しい仕組みづくりを検討してまいります。